中日新聞　（第3種郵便物認可）

ニュースを問う

風化とたたかう 第3部

支え合う仲間 下

科学捜査 進展に希望託す

加藤 美喜（編集委員）

炎天下の今月9日、更地になった事件現場に穏やかな風が吹いていた。かつて母子4人がここに住み、家族のだんらんや笑顔があった。

2004年9月9日、愛知県豊明市の会社員宅で妻の加藤利代さん＝当時(38)、長男佑基さん＝同(15)、長女里奈さん＝同(13)、次男正悟さん＝同(9)＝が殺害され放火された事件は、未解決のまま20年が過ぎた。9日に現場で献花式があり、利代さんの姉の天海としさん(62)や母信子さん(86)のほか、県警捜査員や地元住民らが花を手向けた。その中に毎年、首都圏から駆けつける男性がいた。

遺族の精神的な支柱

全国20件の殺人事件遺族が所属する「宙(そら)の会」の設立者で特別参与の土田猛さん(76)。遺族たちの精神的支柱といえる存在だ。殺人事件の時効撤廃を訴えて社会に風を起こし、会の設立から1年で実現させた、並々ならぬ意志と行動力の持ち主だ。

土田さんは、00年に発生した「東京・世田谷一家殺人事件」の管轄署である警視庁成城署の元署長。退官後の09年に宙の会を立ち上げた。きっかけは「世田谷事件を未解決のまま時効にさせてはならない」という危機感だった。被害者の宮沢みきおさん＝当時(44)＝の父良行さん（故人）から、署員への講話で「犯人を検挙してほしい。（亡くなった）4人に成り代わってお願いします」と頭を下げられた。「私に対する要請と受け止めた。何としても、との思いが宙の会設立につながった」

事件の情報提供を求める活動に参加する土田猛さん(右)と天海としさん＝9月9日、愛知県豊明市で

天海さんや、名古屋市西区の主婦殺害事件（1999年）の遺族高羽悟さん(68)も発足時からのメンバーだ。ほかに、東京・八王子のスーパーナンペイで女子高生ら3人が射殺された事件（95年）、東京・柴又の上智大生殺害事件（96年）、岐阜市三田洞東で独居の高田千代子さん＝同(77)＝が殺害された強盗殺人事件（00年）、金沢市久安のアパートで橋本清勝さん＝同(22)＝が殺害された事件（08年）など、未解決事件の遺族が名を連ねる。

豊明事件のように20年以上が経過した事件が増え、手詰まり感がある中で、土田さんが期待するのは科学捜査の進展だ。

DNA解析の精度は日進月歩で進み、今や年齢誤差は5歳程度で、両親のルーツといった民族性も分かる。他国がやっているように、DNA情報を捜査にもっと活用できないか。人権とのせめぎ合いが予想されるが、被害者の無念を考えて議論を深めてほしいと意気込む。人工知能（AI）を使った立体的な似顔絵の作成なども、宙の会で独自に模索する。

土田さんはさらに想像力を広げる。亡くなった人の目から、最期に見た画像をよみがえらせることができないか。豊明のような放火事件でも、現場に残された灰や微物などを分析して、犯人の痕跡を見つける技術が将来、生まれないだろうか。「鉄腕アトムのような空想の世界の技術も、人間は実現してきた。科学捜査に夢と希望を託したい」

国を動かす夢を描く

未解決事件の捜査に関わる捜査員たちには、「遺族と向き合うことで、命の大切さを感じてほしい」と土田さんは願う。検視官だった時の、身元確認の場面が忘れられない。両親を殺された娘が、遺体にすがって離れようとしない。警察官が離そうとしても、コンクリートに爪を立てて離れなかった。「あんな場面が二度と繰り返されてほしくない」と思う。

民事裁判での損害賠償を国が立て替えて遺族に支払い、加害者に別途、請求する代執行制度の導入も求める。時効がまだあった頃、東京都足立区で女性教師を殺害した男が時効成立後に自首してきた。刑事裁判では罪を問えず、民事裁判で損害賠償を命じる判決が出た。だが、この件を含む多くの民事裁判で、加害者から遺族への支払いはなされないままだ。そんな理不尽な現状を変えるための制度を国に訴え続けている。

日本の警察活動の原点ともいえる「巡回連絡」の重要性も説く。一般住宅は2年に1度、集合住宅は半年に1度、交番の警察官が訪問して住民情報を把握する制度だが、しっかり実施されているとは言い難い。でも、地域住民から丁寧に話を聴くことで、事件解決の手がかりとなる記憶を思い出してもらえるかもしれない。指名手配犯の潜伏や、犯罪を準備している者の兆候をつかめるかもしれない。そんな警察の「基礎体力」の回復を、土田さんは唱える。

豊明事件遺族の天海さんは、「土田さんの信念と責任感に胸を打たれる」と話す。各地の警察が未解決事件の広報活動に力を入れるようになったのも、土田さんが全国を飛び回った努力が影響していると感じる。「遺族がへこたれそうになっても、『いつかは風が吹く』と言って励ましてくれる人。本当にありがたい」

土田さんは遺族の思いが警察官や報道人、社会につながり、微風が強風になって国を動かす夢を描く。人間の知恵や技術が事件を解決する夢を私も抱きながら、今後も取材を続けたい。

＝第3部終わり

豊明母子4人殺人放火事件の情報提供は、愛知県警愛知署特別捜査本部＝電0561（39）0110（代表）＝へ。

連載「風化とたたかう」の過去の記事はこちら

©中日新聞社　著作権は中日新聞社または契約通信社、友好社、外部筆者に帰属します。無断転載、複製、頒布等は著作権法により禁止されています。切り抜きした画像は個人や家庭に準じる範囲でご利用ください。